

CEFR は教材作りにどのように影響を与えているか

中野達也

1 調査の目的

海外の EFL/ESL のほとんどの教材には CEFR のレベルが表示されている。たとえば、オックスフォード大学出版局のコースブックには CEFR の表記がある。また、教材ではないが、同じくオックスフォード大学出版局の出版している Bookworms シリーズは、Stage1、Stage2・・・というレベル表記とは別に、CEFR のレベルも示している。教材選びの段階では、これらのレベルが自分が教えようとしている生徒や学生のレベルに適しているかどうか、あるいは学習者自身が自分のレベルに合っているかを見極める際の参考となる。筆者も大学での教材選びの際、この CEFR 表記を参考にした経験がある。

日本においてもいち早く NHK 語学番組が CEFR に準じたレベル表示を導入した。NHK では、CEFR に基づいた「A1」から「C2」のレベル分けに、さらにもっとも初歩的な「A0」を加えて7段階とし、NHK 独自のレベルを設定している（図1）。中学高等学校の検定教科書においても次期学習指導要領では CEFR レベルが導入されることが伝えられている。これまでの「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」という4領域に対して、「話すこと」をさらに、「やり取り」と「発表」に分けることで、全部で5領域になるということが CEFR の影響の一つである。このように、CEFR は確実に日本の英語教育においても欠くことのできないものとなりつつある。

そのような動きとは裏腹に、現在日本の出版社が作成している、いわゆる教材と呼ばれる類の書籍はまだまだそのような表記がなされていないのが現状である。しかし、今後 CEFR の考え方が導入され、教員が自分たちの担当する生徒たちがどのレベルにあり、どのくらいのレベルを目指していくのかを意識して指導するようになったときには、CEFR が教材選定の基準になることは間違いない。

教材を作成・販売している出版社は、今現在果たして CEFR を意識しているのだろうか。もし意識しているとすれば、どのような基準を参考にし、どのような書籍を作ろうと考えているのか、状況把握をしたいと考え、本調査を行うこととした。

2 調査方法

2-1 アンケートの実施

中高大学生および一般学習者向けに英語教材を提供している出版社に、アンケートの趣旨を記した鑑文（Appendix 1）とアンケート（Appendix 2）を送付し、回答を依頼した。検定教科書については今後の学習指導要領との関係性が強いので、今回は検定教科書では

なく、教材に限定した。

2-2 アンケート協力出版社（順不同）

株式会社 アルク、東京書籍株式会社、株式会社 啓隆社、数研出版株式会社、光村図書出版株式会社、公益財団法人日本英語検定協会、株式会社 学研プラス、有限会社 美誠社、株式会社 朝日出版社（9社）

2-3 アンケートの集計

9社の内、1社は検定試験等はCEFRを意識して作成してはいるものの、教材作成には関わっていないため、回答いただいたが本集計には加えていない。したがって、全8社の回答について以下（表1）に示す。

質問1	はい	4	
	いいえ	4	
質問2	CEFR	3	※質問1で「はい」の場合のみ回答
	CEFR-J	4	
	その他		
質問3	はい	1	※質問1で「はい」の場合のみ回答
	いいえ	3	
質問4	はい	1	※質問1で「いいえ」の場合のみ回答
	いいえ	3	
質問5	回答あり	1	2017年後半以降
	回答なし	7	

質問6	学年	A1	A2	B1	B2	C1	C2	その他
	中1		2					
中2		3	1					Pre-A1
中3		1	1					
高1		2	2					英検準2級レベル
高2		1	1	1				英検2級レベル
高3			1	1	1			英検準1級レベル

表1 アンケート集計結果

その他（自由記述）

・（本編集部）におきましては、国際基準であるCEFRや、日本人にあわせてレベルが細分化されたCEFR-Jを、教材制作時に意識することや、教材使用者に作った教材すべてのレベルを見通していただくためにCEFRのどのレベルかを提示することなどを実施、検討しておりますが、まだ全面的に導入する、というところまでは至っていない状況です。※上記は、全社についてのことではなく、学習参考書を担当する部署である、文教編集部の状況であることをご承知おきください。※（ ）内は筆者記述

・単語集などを作成する際のデータベースにCEFR-Jの語彙リストを取り込んで、比較参照している程度の利用です。CEFRは英検などの資格試験のレベルを把握する上で意識する程度で、制作にあたっては具体的に何かを取り込んでいるということはない。現時点では一般にCEFRの呼称が広がっていないため、教材の表紙などに大きくうたうこともないが、今後の広がりによって表紙にもCEFRの呼称を表示することも検討したい。

・高校3年生までで考えた場合、仮に最上位の学校向けの教材であったとしても「B2」が

限界になろうかと思えます（なお、これはあくまで私個人の考えであり、会社としての公式見解でないことをお断りしておきます）。

- ・NHKに加え、オンライン英会話の教材を CEFR 表記している事業者もあり、普及しているようなので興味はあるのですが。

- ・教育現場からの要望があるなど、必要が生じた場合は導入を検討いたしますが、現時点では導入の予定はございません。

- ・CEFR / CEFRJ というよりも、指導要領の内容に大きく影響される。新指導要領の中ほどの程度具体的に CEFR / CEFRJ の要素が入っているかによって、今後の内容も変わってくる。また、検定教科書ではある程度参考にしてきたが、ドリル的な教材はこれまでのところ CEFR / CEFRJ の指標は意識していない。

- ・レベルを伝える尺度として浸透すれば、CEFR に基づいたレベル表記をすることになると思います。ただ、CEFR は幅が広いので、短期間で使用する問題集などにはなじまないように感じています。

3 結果と考察

今回ご協力いただいたすべての出版社が CEFR を認識していたが、CEFR を意識して教材作りをしていたのは半数だけであった。意識して教材を作っている出版社については、CEFR のみならず CEFR-J も参考にしているようである。

しかし、CEFR のレベルを教材に示しているのはわずか1社のみであった。今現在 CEFR を取り入れていない出版社に対して、今後取り入れる予定があるかどうかを尋ねたところ、予定があるのはわずか1社のみで、残り3社は今後も取り入れる予定はないようである。そのように考える理由には様々あることが推測されるが、1社は「CEFR を専門に研究されている先生に相談したことがあるのですが、ニュース英語の教材が中心のため、実現が難しいということで止まっております。」というコメントを加えている。制作する教材の内容にもよるといふ困難な問題もひそんでいることがわかる。

仮に CEFR を取り入れた場合のレベル設定については、各出版社によって解釈はかなり幅があるようである。A1 は中学1年から高校2年まで、A2 は中学2年から高校3年まで、B1 が高校1年と2年、B2 は高校3年であった。C1 と C2 については中学・高校レベルでは該当学年はなく、かなり高いレベルであると考えられているようである。

このような結果になった理由は、自由記述に垣間見られる。一番大きな理由は、新学習指導要領にどの程度 CEFR が取り入れられるかであろう。それだけ学習指導要領が影響力を持っていることがわかる。第2の理由は、CEFR のレベル設定の幅の広さであろう。実際に教材作りに反映する場合には、出版業界全体でかなり同一見解の設定をしないと、その教材を採択する学校現場が困惑するのではないかと思われる。いずれにしても、CEFR が出版社の教材作りに取り入れられ、それが学校現場で活用されるようになるまでにはまだまだしばらく時間がかかるのではないかと思われる。

しかし、このアンケートを実施するにあたって、各出版社からは非常に興味深い研究であるという感想をいただいた。出版各社が CEFR に注目しており、CEFR が今後、教材作りに大きな影響を与えるであろうことは間違いないと確信している。引き続き、CEFR が日本における教材作りにどのようにかかわってくるのかを追跡調査していくことが必要であろう。



図1 NHK 英語講座レベル一覧

4 CEFR 導入にあたっての提案

最後に、今後 CEFR が教材作りやレベル表記をする際に、レベルをどのように設定し、どのように提示されたら英語を指導する教員や学習者にわかりやすいものとなるかを、すでに CEFR 表記をしている教材等を参考にしながら提案したい。

先述したように、オックスフォード大学出版局の Bookworms シリーズでも CEFR のレベルが表示されるようになった。図2は Level1 の”The Wizard of Oz”であるが、旧版と新版を比較すると、新版には CEFR のレベル表記がある。CEFR のレベルはそもそもレベル

分けられている Stage によって共通している。

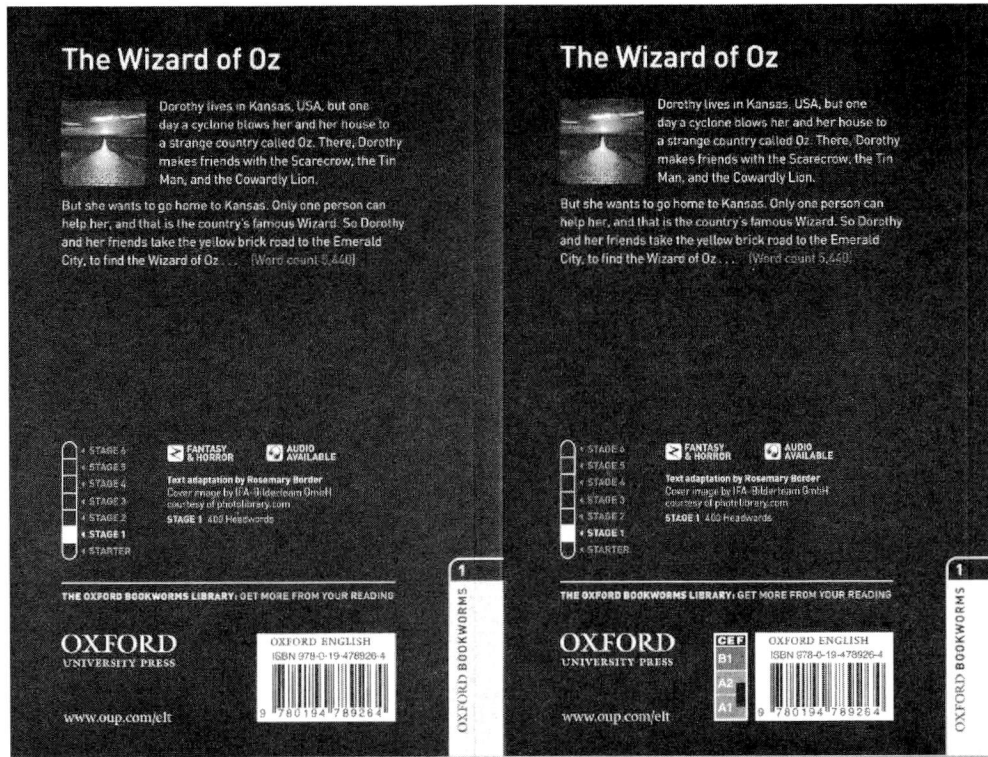


図2 “Wizard of Oz”の旧版（左）と新版（右）の比較

図3は同じく Oxford 出版局の DOMINOES シリーズの CEFR 表記例である。学習者から、シリーズの異なる同じレベルの読み物の難易度について質問を受けることが多々ある。単に Headwords のみでは比較は困難であるし、時には教師の主観的評価になってしま

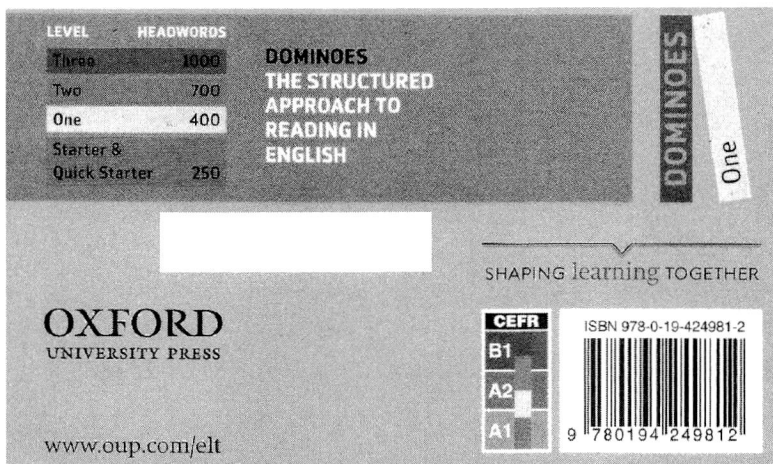


図3 DOMINOES シリーズの CEFR 表記

まう場合もある。しかし、異なるシリーズであっても、CEFR の表記を参考にすることで、レベルを比較することができる。この例では、Bookworms シリーズのレベル1と DOMINOES シリーズのレベル1では、どちらも A1 から A2 のレベルが示されていることから、両者が同レベルであることがわかる。

また、同出版社のコースブックである”New Headway”シリーズには Beginner、Elementary、Pre-Intermediate、Intermediate の4段階があるが、それぞれのレベルを示したものが下の図4から図7である。この表記を見ると、それぞれの本が、まったく別段階の難易度ではなく、少しずつ重なる部分があることがわかる。

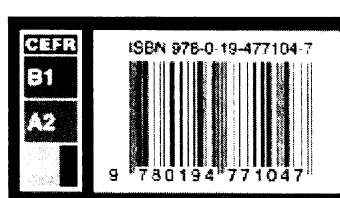


図4 Beginner



図5 Elementary

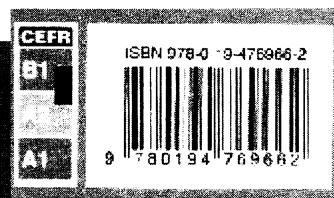


図6 Pre-Intermediate

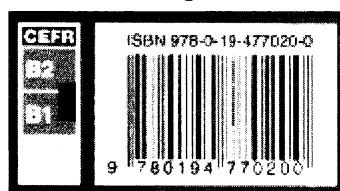


図7 Intermediate

このように CEFR 表記がされることで、個々の教材のレベルが認識できる。ただし、教材同士のレベルが比較できるような一覧表は必要である。海外のコースブックのカタログには教材間の比較が可能である表が示されている。日本においては NHK が作成した図1が参考となる。

一番の関心事は、やはりレベルの設定基準である。先述したとおり、NHK では CEFR に基づいた「A1」から「C2」のレベル分けに、さらにもっとも初歩的な「A0」を加えた7段階とし、NHK 独自のレベルを設定している。その内容は表2に示した通り、きちんと CEFR および CEFR-J を参考にしていることがわかる。しかも、その内容を極限までそぎ落とし、非常にシンプルにしている。こうすることで、研究者のみならず、指導者や学習者まで理解しやすいものとなっている。そして、学習者はこの表から自分のレベルを見つけ出し、その先どこまでを目指したいのかを考えながら教材を選ぶことができるようになっている。そのような意味でも、NHK のレベル表示は先駆的な役割を担っているものと思われる。

おそらく、出版社によって、あるいは教材によって、レベルの基準が異なることは想像できるが、それがあまりに独自のなものになってしまえば比較することが困難であり、無意味になってしまう。したがって、あくまでも、その拠り所は CEFR や CEFR-J に置きながら、なるべくわかりやすいものが表示されることを強く望むものである。

CEFR レベル	SPEAKING Spoken Interaction	SPEAKING Spoken Production	NHK英語講座 レベル一覧	NHK レベル
C2	I can take part effortlessly in any conversation or discussion and have a good familiarity with idiomatic expressions and colloquialisms. I can express myself fluently and convey finer shades of meaning precisely. If I do have a problem I can backtrack and restructure around the difficulty so smoothly that other people are hardly aware of it.	I can present a clear, smoothly flowing description or argument in a style appropriate to the context and with an effective logical structure which helps the recipient to notice and remember significant points.	ほぼすべての話題を容易に理解し、その内容を論理的に再構成して、ごく細かいニュアンスまで表現できる	C2
C1	I can express myself fluently and spontaneously without much obvious searching for expressions. I can use language flexibly and effectively for social and professional purposes. I can formulate ideas and opinions with precision and relate my contribution skilfully to those of other speakers.	I can present clear, detailed descriptions of complex subjects integrating sub-themes, developing particular points and rounding off with an appropriate conclusion.	広範囲で複雑な話題を理解して、目的に合った適切な言葉を使い、論理的な主張や議論を組み立てることができる	C1
B2	I can interact with a degree of fluency and spontaneity that makes regular interaction with native speakers quite possible. I can take an active part in discussion in familiar contexts, accounting for and sustaining my views.	I can present clear, detailed descriptions on a wide range of subjects related to my field of interest. I can explain a viewpoint on a topical issue giving the advantages and disadvantages of various options.	社会生活での幅広い話題について自然に会話ができて、明確かつ詳細に自分の意見を表現できる	B2
B1	I can deal with most situations likely to arise whilst travelling in an area where the language is spoken. I can enter unprepared into conversation on topics that are familiar, of personal interest or pertinent to everyday life (e.g. family, hobbies, work, travel and current events).	I can connect phrases in a simple way in order to describe experiences and events, my dreams, hopes and ambitions. I can briefly give reasons and explanations for opinions and plans. I can narrate a story or relate the plot of a book or film and describe my reactions.	社会生活での身近な話題について理解し、自分の意志とその理由を簡単に説明できる	B1
A2	I can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar topics and activities. I can handle very short social exchanges, even though I can't usually understand enough to keep the conversation going myself.	I can use a series of phrases and sentences to describe in simple terms my family and other people, living conditions, my educational background and my present or most recent job.	日常生活での身近なことがらについて、簡単なやりとりができる	A2
A1	I can interact in a simple way provided the other person is prepared to repeat or rephrase things at a slower rate of speech and help me formulate what I'm trying to say. I can ask and answer simple questions in areas of immediate need or on very familiar topics.	I can use simple phrases and sentences to describe where I live and people I know.	日常生活での基本的な表現を理解し、ごく簡単なやりとりができる	A1
Pre-A1	基本的な語句を使って、「助けて！」や「～が欲しい」などの自分の要求を伝えることができる。また、必要があれば、欲しいものを指さしながら自分の意思を伝えることができる。	簡単な語や基礎的な句を用いて、自分についてごく限られた情報(名前、年齢など)を伝えることができる。	ごく簡単な表現を聞きとれて、基本的な語句で自分の名前や気持ちを伝えられる	A0
	一般的な定型の日常の挨拶や季節の挨拶をしたり、そすした挨拶に回答したりすることができる。	前もって話すことを用意した上で、基礎的が語句、定型表現を用いて、人前で実物などを見せながらその物を説明することができる。		

表2 CEFR / CEFR-J と NHK のレベル比較

参考文献

- 投野 由紀夫. (2013). 『CAN - DO リスト作成・活用 英語到達度指標 CEFR - J ガイドブック』大修館書店.
- NHK 出版.(2016). 『NHK 英語テキスト 2016 フル活用 BOOK』NHK 出版.
- Rosemary Border, R., Baum, L.R. (2007). *The Wizard of Oz*, Oxford University Press.
- Sir Arthur Conan Doyle. (2014). *Dominoes: One: Sherlock Holmes: The Top-Secret Plans*, Oxford University Press.
- Soars, J., Soars, L. (2010). *New Headway: Beginner Third Edition: Student's Book*, Oxford University Press.
- Soars, J., Soars, L. (2010). *New Headway: Elementary Fourth Edition: Student's Book*, Oxford University Press.
- Soars, J., Soars, L. (2012). *New Headway: Pre-Intermediate Fourth Edition: Student's Book*, Oxford University Press.
- Soars, J., Soars, L. (2012). *New Headway: Intermediate Fourth Edition: Student's Book*, Oxford University Press.

平成28年12月19日

各位

アンケート調査ご協力のお願い

拝啓

歳末ご多端の折、ますますご清祥のことと存じます。

さて、当方は小池生夫慶應義塾大学名誉教授・明海大学名誉教授が主催する言語教育振興財団英語小委員会で、英語教育に関わる様々な問題について研究を重ねております。

今年度はCEFR（Common European Framework of Reference for Languages：ヨーロッパ言語共通参照枠）について研究を深めてまいりました。

既に海外の英語教材に関しましてはCEFRのレベル表記がなされております。日本国内においても、NHKの語学プログラムがCERFに基づいたレベル表記をするようになりました。今後この傾向は日本国内の検定教科書や教材作りに関しても影響を及ぼすことは十分予想されることとあります。そこで、この度アンケートを通して現状を把握することを目的とするものであります。

同様のアンケートは数社にお送りし、その結果は当委員会の今年度の報告書でまとめさせていただきます。文書にする際には各社の教材の固有名詞は示さないとともに、アンケートの内容が特定できないよう十分配慮いたします。

つきましては、何かとご多用中のところ恐縮ですが、同封のアンケートにお答えいただきたく存じます。また、ご記入いただいたアンケートは、明年1月15日（日）を目途に下記メールアドレスまで返信いただきますようお願いいたします。

当委員会は、今後ともよりよい英語教育を目指して研究を深めてまいりますので、引き続きご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

※当調査に関するご質問等がございましたら、下記までご連絡をいただければと存じます。

駒沢女子大学 人文学部 国際文化学科
担当 中野達也
電話 042-350-7111
t-nakano@komajo.ac.jp

Appendix 2

出版社アンケート

該当する回答に○を付けてください。

質問1 現在教材づくりをするときに CEFR 等を意識していますか？

はい → 質問2、質問3、質問6へ

いいえ → 質問4、質問5、質問6へ

質問2 教材づくりをするときに意識している基準はどれですか？

- 1 CEFR
- 2 CEFR-J
- 3 その他 ()

質問3 CEFR 等の表示を示している教材はありますか？

はい
(教材の種類とレベル：例) 単語集 (A1))

いいえ

質問4 今後教材づくりをするときに CEFR 等を取り入れる予定はありますか？

はい

いいえ

質問5 CEFR 等を導入する予定時期はいつからですか？

年 月頃

質問6 CEFR を教材に取り入れるとき、教材のレベル設定は学年ごとにどの程度ですか？

学年	レベル							
中1	A1	A2	B1	B2	C1	C2	その他()	
中2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	その他()	
中3	A1	A2	B1	B2	C1	C2	その他()	
高1	A1	A2	B1	B2	C1	C2	その他()	
高2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	その他()	
高3	A1	A2	B1	B2	C1	C2	その他()	

その他 (自由記述)

ご協力ありがとうございました。